



Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5 インストール ガイド

Installation Guide for Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5

2010年11月15日

【注意】シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意
(www.cisco.com/jp/go/safety_warning/)をご確認ください。

本書は、米国シスコシステムズ発行ドキュメントの参考和訳です。
リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップ
デートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合があ
りますことをご了承ください。
あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サ
イトのドキュメントを参照ください。

また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊
社担当者にご確認ください。

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

FCC クラス A 準拠装置に関する記述：この装置はテスト済みであり、FCC ルール Part 15 に規定された仕様のクラス A デジタル装置の制限に準拠していることが確認済みです。これらの制限は、商業環境で装置を使用したときに、干渉を防止する適切な保護を規定しています。この装置は、無線周波エネルギーを生成、使用、または放射する可能性があり、この装置のマニュアルに記載された指示に従って設置および使用しなかった場合、ラジオおよびテレビの受信障害が起こることがあります。住宅地でこの装置を使用すると、干渉を引き起こす可能性があります。その場合には、ユーザ側の負担で干渉防止措置を講じる必要があります。

FCC クラス B 準拠装置に関する記述：このマニュアルに記載された装置は、無線周波エネルギーを生成および放射する可能性があります。シスコシステムズの指示する設置手順に従わずに装置を設置した場合、ラジオおよびテレビの受信障害が起こることがあります。この装置はテスト済みであり、FCC ルール Part 15 に規定された仕様のクラス B デジタル装置の制限に準拠していることが確認済みです。これらの仕様は、住宅地で使用したときに、このような干渉を防止する適切な保護を規定したものです。ただし、特定の設置条件において干渉が起きないことを保証するものではありません。

シスコシステムズの書面による許可なしに装置を改造すると、装置がクラス A またはクラス B のデジタル装置に対する FCC 要件に準拠しなくなることがあります。その場合、装置を使用するユーザの権利が FCC 規制により制限されることがあり、ラジオまたはテレビの通信に対するいかなる干渉もユーザ側の負担で矯正するように求められることがあります。

装置の電源を切ることによって、この装置が干渉の原因であるかどうかを判断できます。干渉がなくなれば、シスコシステムズの装置またはその周辺機器が干渉の原因になっていると考えられます。装置がラジオまたはテレビ受信に干渉する場合には、次の方法で干渉が起きないようにしてください。

- 干渉がなくなるまで、テレビまたはラジオのアンテナの向きを変えます。
- テレビまたはラジオの左右どちらかの側に装置を移動させます。
- テレビまたはラジオから離れたところに装置を移動させます。
- テレビまたはラジオとは別の回路にあるコンセントに装置を接続します（装置とテレビまたはラジオがそれぞれ別個のブレーカーまたはヒューズで制御されるようにします）。

米国シスコシステムズ社では、この製品の変更または改造を認めていません。変更または改造した場合には、FCC 認定が無効になり、さらに製品を操作する権限を失うこととなります。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコシステムズおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコシステムズおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコシステムズまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任は一切負わないものとします。

Cisco and the Cisco Logo are trademarks of Cisco Systems, Inc. and/or its affiliates in the U.S. and other countries. A listing of Cisco's trademarks can be found at www.cisco.com/go/trademarks. Third party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1005R)

このマニュアルで使用している IP アドレスは、実際のアドレスを示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、および図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスが使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5 インストールガイド

© 2010 Cisco Systems, Inc.

All rights reserved.

Copyright © 2010–2011, シスコシステムズ合同会社.

All rights reserved.



CONTENTS

Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5 のインストールの概要	1
Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5 のインストールの概要	1
サポート対象モジュール	2
ライセンス システム	2
オープン ソース ライセンス	2
プラットフォームおよび Cisco IOS ソフトウェア イメージ	2
インストールの手順	3
マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート	3
シスコのテクニカル サポート	4
Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5 ドキュメント ロードマップ	5
マニュアルのクイック リスト	5
リリース情報と一般情報	5
ライセンス情報	5
リリース ノート	5
リファレンス ガイド	6
コマンド リファレンス	6
インストールおよびアップグレード	6
インストールおよびアップグレード ガイド	6
メンテナンスおよびオペレーション	6
メンテナンスおよびオペレーション ガイド	6
Cisco DocWiki のトラブルシューティング情報	7
マーケティング資料	7
ソフトウェアのダウンロード	7
Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5 のインストール	9
Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5 のインストールに関する制限事項	9
設定	9
ハードウェア	9
システムの機能	9
Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5 のインストールの前提条件	10
ISR への適切な IOS イメージのロード	10
Cisco Unified SIP Proxy への IP 接続のアクティブ化	11

前提条件	11
手順の概要	12
手順の詳細	12
IP 接続の例	13
モジュールでのセッションの開始と終了	13
手順の概要	13
手順の詳細	14
FTP サーバおよび TFTP サーバの準備	15
初めての Cisco Unified SIP Proxy の起動	15
ソフトウェアのダウンロードとインストール方法	16
クリーン インストール コマンドの使用	16
クリーン インストール コマンド使用の前提条件	16
クリーン インストール コマンドのソフトウェア ファイルのダウンロードとインストール	17
ソフトウェアのインストール例	17
ポストインストール設定ツールの使用	20
Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5 ソフトウェア ライセンスのインストール	25
Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5 のライセンスの概要	25
Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5 のライセンスのインストール	25
新しいライセンスまたは追加のライセンスの取得	26
必要な情報	26
ライセンシング ポータルを使用した追加機能またはアプリケーションのライセンスの取得	26
CLI を使った Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5 ライセンスのインストール	27
Cisco Unified SIP Proxy Release 1.x から Release 8.5 への移行	29
移行の概要	29
制限事項	29
手順の概要	29
手順の詳細	30
関連事項	31

Index



Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5 のインストールの概要

このガイドでは、Cisco Unified SIP Proxy ソフトウェアをインストールおよびアップグレードするための、Cisco Unified SIP Proxy コマンドライン インターフェイス (CLI) のコマンドセットとグラフィカル ユーザ インターフェイス (GUI) のオプションについて説明します。

このガイドを使って Cisco Unified SIP Proxy ソフトウェアをインストールします。このガイドでは Cisco ルータまたは Cisco ネットワーク モジュールの取り付け方法については説明していません。

このバージョンの Cisco Unified SIP Proxy の最新情報については、『[Release Notes for Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5](#)』を参照してください。

この章は、次の項で構成されています。

- 「[Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5 のインストールの概要](#)」 (P.1)
- 「[サポート対象モジュール](#)」 (P.2)
- 「[ライセンス システム](#)」 (P.2)
- 「[オープン ソース ライセンス](#)」 (P.2)
- 「[プラットフォームおよび Cisco IOS ソフトウェア イメージ](#)」 (P.2)
- 「[インストールの手順](#)」 (P.3)
- 「[マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート](#)」 (P.3)
- 「[シスコのテクニカル サポート](#)」 (P.4)

Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5 のインストールの概要

Cisco Unified SIP Proxy は高パフォーマンスで可用性の高い Session Initiation Protocol (SIP; セッション開始プロトコル) サーバで、集中ルーティングと SIP シグナリングの正規化を実現します。Release 8.5 では、新たに 2 つのハードウェア プラットフォームに Cisco Unified SIP Proxy をインストールできるようになりました。ISR ファミリ (3800 シリーズ) では Enhanced Network Module (NME; 拡張ネットワーク モジュール) に、SRE ファミリ (2900 および 3900 シリーズ) ではサービス モジュールに Cisco Unified SIP Proxy をインストールできます。

新規のお客様の場合は Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5 をインストールし、Cisco Unified SIP Proxy Release 1.x から Release 8.5 に変更しようとしている既存のお客様場合は、Release 8.5 に移行できます。Cisco Unified SIP Proxy の以前のリリースからのソフトウェアのアップグレードはサポートしていません。Cisco Unified SIP Proxy の以前のリリースをお使いのお客様で Release 8.5 への変更をお考えの場合は、Release 8.5 用のソフトウェアを新規にインストールする必要があります。

サポート対象モジュール

Cisco Unified SIP Proxy の 8.5 以前のリリースでサポートされていたのは NME-CUSP-522-K9 モジュールだけでした。Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5 では、SM-SRE-700-K9 および SM-SRE-900-K9 Service Ready Engine (SRE) の各モジュールのサポートが追加されています。これらのサービス モジュールがサポートされるのは、Cisco 2900 シリーズおよび Cisco 3900 シリーズのルータに限られます。Cisco Unified SIP Proxy に関連する、これらのモジュールの仕様の詳細については、『[Release Notes for Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5](#)』を参照してください。これらのモジュールの一般的な情報の詳細については、『[Cisco SRE Service Module Configuration and Installation Guide](#)』を参照してください。

Cisco Unified SIP Proxy アプリケーション ソフトウェアは通常、工場出荷状態でモジュールにプレインストールされています。ただし、ソフトウェアの再インストールが必要な場合もあります。詳細については、『[Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5 のインストール](#)」(P.9) を参照してください。

ライセンス システム

Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5 は、Cisco Software Licensing (CSL; シスコ ソフトウェア ライセンシング) システムをサポートしています。CSL のライセンスについては、『[Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5 ソフトウェア ライセンスのインストール](#)』で詳しく説明しています。

オープン ソース ライセンス

Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5 用に開発されたソフトウェアのコンポーネントには、オープンソースまたは有料のライセンスで提供されているものがあります。こうしたコンポーネントと関連する著作権文については、http://www.cisco.com/en/US/products/ps10475/products_licensing_information_listing.html を参照してください。

プラットフォームおよび Cisco IOS ソフトウェア イメージ

Cisco Unified SIP Proxy ソフトウェアは、Cisco IOS ソフトウェア コマンドと似た構造の一連のコマンドを使用します。ただし、Cisco Unified SIP Proxy コマンドは、Cisco IOS の設定には影響を与えません。

Cisco Unified SIP Proxy のハードウェア モジュールおよびプラットフォームは、運用に Cisco IOS コマンドを使用します。サポートされている Cisco Unified SIP Proxy ソフトウェア イメージおよびハードウェア プラットフォームの詳細については、『[Release Notes for Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5](#)』を参照してください。

インストールの手順

Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5 を新規インストールするには、表 1 の手順に従います。



(注) Release 8.5 への移行に関する情報については、「Cisco Unified SIP Proxy Release 1.x から Release 8.5 への移行」を参照してください。

表 1 インストールの手順

作業	詳細の参照先
モジュールを物理的に取り付けます。 Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5 ソフトウェアは、次のいずれかにインストールできます。 <ul style="list-style-type: none"> ISR ファミリ (Cisco 3800 シリーズ) の NME SRE ファミリ (Cisco 2900 および 3900 シリーズ) のサービス モジュール 	<ul style="list-style-type: none"> 『Cisco 3800 Series Hardware Installation』 『Cisco 3900 Series and Cisco 2900 Series Hardware Installation Guide』
制限事項を確認し、前提条件を実行します。	<ul style="list-style-type: none"> 「Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5 のインストールに関する制限事項」 (P.9) 「Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5 のインストールの前提条件」 (P.10)
ISR を設定します。	「ISR への適切な IOS イメージのロード」 (P.10)
Cisco Unified SIP Proxy への IP 接続をアクティブ化します。	「Cisco Unified SIP Proxy への IP 接続のアクティブ化」 (P.11)
Cisco Unified SIP Proxy へのセッションを開きます。	「モジュールでのセッションの開始と終了」 (P.13)
Cisco Unified SIP Proxy ソフトウェアをダウンロードし、インストールします。 ¹	「ソフトウェアのダウンロードとインストール方法」 (P.16)
ポストインストール ツールを起動します。	「ポストインストール設定ツールの使用」 (P.20)
ライセンスをインストールします。	「Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5 ソフトウェアライセンスのインストール」 (P.25)

1. Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5 を注文すると、ソフトウェアは工場ではモジュールにインストールされます。

マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート

マニュアルの入手方法、テクニカル サポート、その他の有用な情報について、次の URL で、毎月更新される『What's New in Cisco Product Documentation』を参照してください。シスコの新規および改訂版の技術マニュアルの一覧も示されています。

<http://www.cisco.com/en/US/docs/general/whatsnew/whatsnew.html>

『What's New in Cisco Product Documentation』は RSS フィードとして購読できます。また、リーダーアプリケーションを使用してコンテンツがデスクトップに直接配信されるように設定することもできます。RSS フィードは無料のサービスです。シスコは現在、RSS バージョン 2.0 をサポートしています。

シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>左の URL にアクセスして、シスコのテクニカル サポートを最大限に活用してください。</p> <p>以下を含むさまざまな作業にこの Web サイトが役立ちます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • テクニカル サポートを受ける • ソフトウェアをダウンロードする • セキュリティの脆弱性を報告する、またはシスコ製品のセキュリティ問題に対する支援を受ける • ツールおよびリソースへアクセスする • Product Alert の受信登録 • Field Notice の受信登録 • Bug Toolkit を使用した既知の問題の検索 • Networking Professionals (NetPro) コミュニティで、技術関連のディスカッションに参加する • トレーニング リソースへアクセスする • TAC Case Collection ツールを使用して、ハードウェアや設定、パフォーマンスに関する一般的な問題をインタラクティブに特定および解決する <p>Japan テクニカル サポート Web サイトでは、Technical Support Web サイト（http://www.cisco.com/techsupport）の、利用頻度の高いドキュメントを日本語で提供しています。</p> <p>Japan テクニカル サポート Web サイトには、次の URL からアクセスしてください。</p> <p>http://www.cisco.com/jp/go/tac</p>	<p>http://www.cisco.com/en/US/support/index.html</p>
<p>Cisco Feature Navigator の Web サイト</p>	<p>http://www.cisco.com/go/cfn</p> <p>Cisco Feature Navigator を使用して、プラットフォーム サポートと Cisco IOS および Catalyst OS ソフトウェア イメージのサポートに関する情報を入手します。Cisco.com のアカウントは不要です。</p>



Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5 ドキュメント ロードマップ

マニュアルのクイック リスト

- 『[Release Notes for Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5](#)』
- 『[Open Source Licensing for Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5](#)』
- 『[Install Guide for Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5](#)』
- 『[CLI Configuration Guide for Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5](#)』
- 『[CLI Command Reference for Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5](#)』
- 『[GUI Administration Guide for Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5](#)』

リリース情報と一般情報

ライセンス情報

『[Open Source Licensing for Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5](#)』

本製品で使用しているオープン ソース ソフトウェアに関する情報が記載されています。

このマニュアルは、

http://www.cisco.com/en/US/products/ps10475/products_licensing_information_listing.html から入手
できます。

リリース ノート

『[Release Notes for Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5](#)』

システム要件、ライセンス情報、新機能、制限事項、マニュアルが解説されています。

このマニュアルは、http://www.cisco.com/en/US/products/ps10475/prod_release_notes_list.html から
入手できます。

リファレンス ガイド

コマンド リファレンス

『*Command Reference for Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5*』

Command Line Interface (CLI; コマンドライン インターフェイス) を使って Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5 ソフトウェアを設定するためのヒントが記載されています。使用可能な CLI コマンドと構文がリストされています。

このマニュアルは、

http://www.cisco.com/en/US/products/ps10475/prod_command_reference_list.html から入手できます。

インストールおよびアップグレード

インストールおよびアップグレード ガイド

『*Installation Guide for Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5*』

Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5 のインストール方法と、ライセンスのインストールに関する情報が記載されています。

このマニュアルは、http://www.cisco.com/en/US/products/ps10475/prod_installation_guides_list.html から入手できます。

メンテナンスおよびオペレーション

メンテナンスおよびオペレーション ガイド

『*CLI Configuration Guide for Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5*』

Cisco Unified SIP Proxy システムのセットアップ、設定、操作、メンテナンスに使用する、Command Line Interface (CLI; コマンドライン インターフェイス) の使用方法が記載されています。

このマニュアルは、

http://www.cisco.com/en/US/products/ps10475/products_installation_and_configuration_guides_list.html から入手できます。

『*GUI Administration Guide for Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5*』

このマニュアルは、グラフィカル ユーザ インターフェイス (GUI) で利用できる、Cisco Unified SIP Proxy のオンライン ヘルプと同じ内容です。Cisco Unified SIP Proxy システムをセットアップ、設定、運用、メンテナンスするために使用する、GUI の使用方法に関する情報が記載されています。

このマニュアルは、

http://www.cisco.com/en/US/products/ps10475/products_installation_and_configuration_guides_list.html から入手できます。

Cisco DocWiki のトラブルシューティング情報

Cisco Unified SIP Proxy のトラブルシューティング情報は、Cisco DocWiki (http://docwiki.cisco.com/wiki/Cisco_Unified_SIP_Proxy) で参照できます。

DocWiki 上の情報は、Cisco.com のユーザ ID とパスワードをお持ちのかたなら誰でも更新できます。こうすることで、シスコとお客様との間でトラブルシューティング情報が共有されます。

マーケティング資料

Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5 のマーケティング資料（データシートを含む） (<http://www.cisco.com/en/US/products/ps10140/index.html>) をご覧ください。

ソフトウェアのダウンロード

Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5 ソフトウェアをダウンロードするには、<http://tools.cisco.com/support/downloads/pub/Redirect.x?mdfid=282713225> にアクセスしてください。



Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5 のインストール

- 「Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5 のインストールに関する制限事項」 (P.9)
- 「Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5 のインストールの前提条件」 (P.10)
- 「ソフトウェアのダウンロードとインストール方法」 (P.16)

Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5 のインストールに関する制限事項

- 「設定」 (P.9)
- 「ハードウェア」 (P.9)
- 「システムの機能」 (P.9)

設定

モジュールソフトウェアの設定は、コンソールを使って行う方法しかありません。コンソールは、ホストルータに1つ付いているシリアルコンソールポートに接続します。コンソールから、ルータのCisco IOSソフトウェアCLIを使い、モジュールにアクセスします。

ハードウェア

- モジュールのハードディスクは交換できません。モジュールのハードディスクがクラッシュしたら、モジュールを交換する必要があります。
- モジュールの前面パネルにあるファストイーサネット0ポートはCisco Unified SIP Proxyでは使用しないため、無効になっています。Cisco Unified SIP Proxyモジュールとルータの接続はバックプレーンのファストイーサネットポートを使って行います。このポートはモジュールで唯一アクティブになっているファストイーサネットポートです。

システムの機能

Cisco Unified SIP ProxyはCiscoWorks Configmakerをサポートしていません。

Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5 のインストールの前提条件

- 「ISR への適切な IOS イメージのロード」 (P.10)
- 「Cisco Unified SIP Proxy への IP 接続のアクティブ化」 (P.11)
- 「モジュールでのセッションの開始と終了」 (P.13)
- 「FTP サーバおよび TFTP サーバの準備」 (P.15)
- 「初めての Cisco Unified SIP Proxy の起動」 (P.15)

ISR への適切な IOS イメージのロード

Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5 には 3800 シリーズの IPVOICE IOS イメージが必要です。ISR に適切な IOS イメージをロードするには、次の手順に従います。

手順

-
- ステップ 1** Cisco.com からこのイメージの K9 バージョンをダウンロードします。
- ファイルの名称は `c<xxx>-ipvoicek9-<IOS_release_number>.bin` で、`<xxx>` はモジュール番号、`<IOS_release_number>` はお使いの Cisco IOS システムのリリース番号を表します。たとえば、`c3845-ipvoicek9-mz.150-1.XA4.bin` というファイルは、Cisco IOS Release 15.0.1-XA4 を使用する 3845 用です。
- ファイルを見つけるには、次の手順を実行します。
- a. Cisco.com を開きます。
 - b. [Products & Services] をクリックします。
 - c. [Network Systems] > [Products] で [Routers] をクリックします。
 - d. [All Products] タブをクリックします。
 - e. [Branch Routers] をクリックします。
 - f. お使いのルータのモデルをクリックします。
 - g. ページの真ん中にある [Support] ボックスで、[Download Software] をクリックします。
 - h. お使いのルータのモデル名をクリックします。
 - i. [Select a Software Type] で [IOS Software] をクリックします。
 - j. システムにインストールされている IOS バージョンに対応したソフトウェア バージョンをクリックします。
 - k. ファイルが見つかるまでスクロール ダウンします。
 - l. [Download Now] をクリックします。
 - m. プロンプトが表示されたらログインします。
 - n. ダウンロードを続行します。
- ステップ 2** コンソールを物理的にルータに接続します。
- ステップ 3** SSH または Telnet を使ってマシンにログインします。
- ステップ 4** [ステップ 1](#) でダウンロードしたイメージをフラッシュのディレクトリにコピーします。

- ステップ 5** ルータがフラッシュからブートできるように、設定レジスタが 0x2102 に設定されていることを確認します。
- ステップ 6** リブート後にこの Cisco IOS イメージが自動的にロードされるように ISR を設定します。設定には次のコマンドを入力します。

```
boot-start-marker
boot system flash:<file_name>
boot-end-marker
```

Cisco Unified SIP Proxy への IP 接続のアクティブ化

ルータにモジュールを物理的に取り付けたら、ホスト ルータと Cisco Unified SIP Proxy アプリケーション間の IP 通信リンクをアクティブにする必要があります。

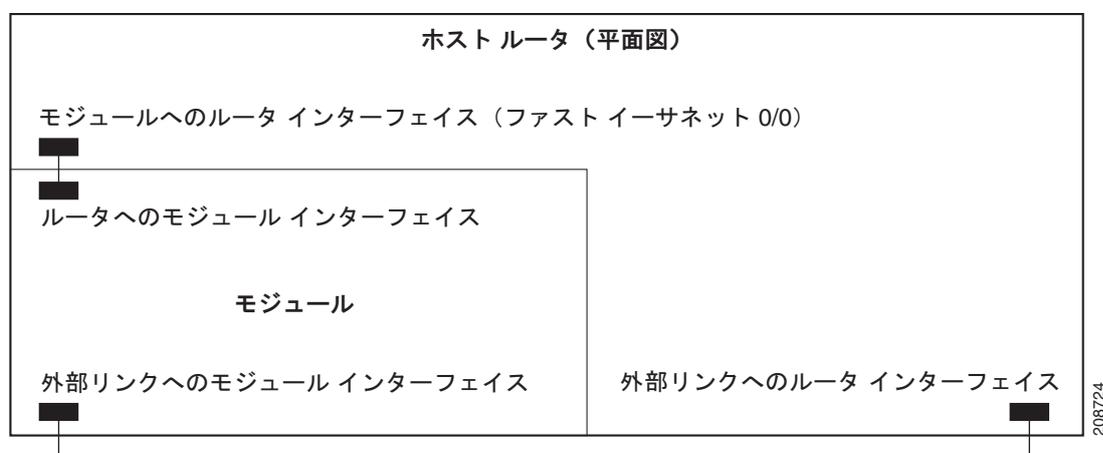
- [「前提条件」 \(P.11\)](#)
- [「手順の概要」 \(P.12\)](#)
- [「手順の詳細」 \(P.12\)](#)
- [「IP 接続の例」 \(P.13\)](#)

前提条件

ソフトウェアをアクティブ化する前に次の情報を収集します。

- Cisco Unified SIP Proxy のホストとなる Cisco ルータのモジュールの、スロット番号およびポート番号。
- Cisco Unified SIP Proxy のホストとなる Cisco ルータの IP アドレスとサブネット マスク、またはアンナンバード インターフェイス タイプと番号。
- モジュールの IP アドレス。この IP アドレスは、Cisco Unified SIP Proxy のホストとなる Cisco ルータと同じサブネット上にある必要があります。
- ホスト ルータのデフォルト ゲートウェイの IP アドレス。この IP アドレスは、Cisco Unified SIP Proxy のホストとなる Cisco ルータと同じ IP アドレスにする必要があります。

図 1 ルータとモジュールのインターフェイス



手順の概要

1. `interface integrated-Service-Engine slot/port`
2. `ip address router-ip-addr subnet-mask`
または
`ip unnumbered type number`
3. `service-module ip address cusp-side-ip-addr subnet-mask`
4. `service-module ip default-gateway gw-ip-addr`
5. `ip route cusp-side-ip-addr subnet-mask integrated-Service-Engine slot/port`
6. `exit`

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	モジュールのタイプに基づき、次のいずれかを入力します。	
	<pre>interface integrated-service-engine slot/port</pre> <p>例： Router(config)# interface interface-service-engine 2/0</p>	拡張ネットワーク モジュール (NME) でインターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<pre>interface sm slot/0</pre> <p>例： Router(config)# interface sm 2/0</p>	サービス モジュール (SM) SRE モジュールでインターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
	次のいずれか 1 つを入力します。	
ステップ 3	<pre>ip address router-ip-addr subnet-mask</pre> <p>例： Router(config-if)# ip address 172.18.12.28 255.255.255.0</p>	Cisco Unified SIP Proxy のホストとなる Cisco IOS ルータの IP アドレスとサブネット マスクを指定します。
	<pre>ip unnumbered type number</pre> <p>例： Router(config-if)# ip unnumbered FastEthernet 0/0</p>	Cisco Unified SIP Proxy のホストとなる Cisco IOS ルータのインターフェイスの <i>type</i> (タイプ) と <i>number</i> (番号) を指定します。
	<pre>service-module ip address cusp-side-ip-addr subnet-mask</pre> <p>例： Router(config-if)# service-module ip address 172.18.12.26 255.255.255.255</p>	Cisco Unified SIP Proxy のモジュール インターフェイスの IP アドレスを指定します。この IP アドレスは、Cisco Unified SIP Proxy のホストとなる Cisco ルータと同じサブネット上にある必要があります。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 4	<pre>service-module ip default-gateway gw-ip-addr</pre> <p>例:</p> <pre>Router(config-if)# service-module ip default-gateway 172.18.12.1</pre>	Cisco Unified SIP Proxy のデフォルト ゲートウェイを指定します。
ステップ 5	<pre>ip route cusp-side-ip-addr subnet-mask integrated-Service-Engine slot/port</pre> <p>例:</p> <pre>Router(config-if)# ip route 172.18.12.26 255.255.255.255 integrated-Service-Engine 2/0</pre>	Cisco Unified SIP Proxy 側の IP ルートを指定します。
ステップ 6	<pre>exit</pre> <p>例:</p> <pre>Router(config-if)# exit</pre>	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。

IP 接続の例

次の出力は **show running-config** コマンドの出力の一部で、インターフェイスがどのように設定されているかを示しています。

IP アドレス指定

```
Router(config)# interface integrated-Service-engine 1/0
Router(config-if)# ip address 10.0.0.20 255.255.255.0
Router(config-if)# service-module ip address 172.18.12.28 255.255.255.0
Router(config-if)# service-module ip address default-gateway 172.18.12.26
Router(config-if)# ip route 172.18.12.26 255.255.255.255 integrated-Service-Engine 2/0
```

IP アンナンバード指定

```
Router(config)# interface integrated-Service-Engine 2/0
Router(config-if)# ip unnumbered GigabitEthernet 0/0
Router(config-if)# service-module ip address 172.18.12.26 255.255.255.255
Router(config-if)# service-module ip default-gateway 172.18.12.1
Router(config-if)# ip route 172.18.12.26 255.255.255.255 integrated-Service-Engine 2/0
```

モジュールでのセッションの開始と終了

モジュール インターフェイスのセットアップが終了したら、Cisco Unified SIP Proxy でセッションを開始および終了できます。Cisco Unified SIP Proxy モジュールに初めてアクセスしたときは、ホスト名は工場出荷時のデフォルト（おそらく SE-Module）になっています。

- 「手順の概要」(P.13)
- 「手順の詳細」(P.14)

手順の概要

ホスト ルータの CLI より

1. enable

2. モジュールのタイプに基づき、次のいずれかを入力します。
service-module integrated-Service-Engine slot/port status
service-module Service-Module slot/port status
3. **service-module integrated-Service-Engine slot/port session**
4. 資格情報を入力します。

モジュールの CLI より

5. 設定その他の手順を実行します。
 - セッションを初めて開始したとき、ポストインストール設定ツールが起動されます。「[ポストインストール設定ツールの使用](#)」(P.20) を参照してください。
 - 使用可能なその他の設定を確認するには、『[CLI Configuration Guide for Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5](#)』を参照してください。
6. Control+Shift+6 x または **exit** を入力します。

ホスト ルータの CLI より

7. **service-module integrated-Service-Engine slot/port session clear**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
	ホスト ルータの CLI より	
ステップ 1	enable 例： Router> enable	ホスト ルータで特権 EXEC モードを開始します。パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	service-module integrated-service-engine slot/port status 例： Router# service-module integrated-service-engine 2/0 status	指定したモジュールのステータスが表示され、モジュールが稼動している（状態が安定している）ことを確認できます。 (注) モジュールが稼動していない場合は、いずれかのスタートアップ コマンドを使って起動します。スタートアップ コマンドは『 CLI Command Reference for Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5 』に記載されています。
ステップ 3	service-module integrated-service-engine slot/port session 例： Router# service-module integrated-service-engine 1/0 session	指定したモジュールでセッションを開始します。次のいずれかを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> • 自動ブート シーケンスを中断してブートローダにアクセスするには、素早く *** と入力します。 • コンフィギュレーション セッションを開始するには、Enter を押します。
ステップ 4		資格情報を入力します。

コマンドまたはアクション	目的
サービス モジュール インターフェイスより	
ステップ 5 例 : SE-Module> configure terminal SE-Module (config)> . SE-Module (config)> exit SE-Module> write	必要に応じてモジュールでコンフィギュレーション コマンドを入力します。 コンフィギュレーション コマンドの選択は、ルータ で行う場合と似ています。 configure terminal コマ ンドを使ってグローバル コンフィギュレーション モードを開始します。コンフィギュレーション コマ ンドを入力します。 exit コマンドを使ってグローバ ル コンフィギュレーション モードを終了し、 write コマンドを使って新しい設定を保存します。
ステップ 6 Control+Shift+6 x を押します。	サービス モジュール セッションを閉じ、ルータの CLI に戻ります。 (注) サービス モジュール セッションは、次のス テップでクリアするまで起動したままになっ ています。起動中は、 Enter を押すことで、 ルータの CLI からサービス モジュール セッ ションに戻ることができます。
ホスト ルータの CLI より	
ステップ 7 service-module service-engine slot/0 session clear 例 : Router# service-module service-engine 1/0 session clear	指定したモジュールのサービス モジュール セッショ ンをクリアします。このコマンドを確認するプロン プトが表示されたら、 Enter を押します。

FTP サーバおよび TFTP サーバの準備

ダウンロード用の FTP サーバおよび TFTP サーバにアクセスできることを確認します。FTP サーバは、インストール、バックアップ、復元に、TFTP ファイル サーバ (FTP ファイル サーバマシン上) は、インストールが失敗したときに、復旧のためのブートヘルパーの操作に必要になります。



(注) Cisco Unified SIP Proxy と通信する FTP サーバがパッシブ FTP 要求をサポートしている必要があります。

詳細については、お使いの FTP サーバのマニュアルを参照してください。

初めての Cisco Unified SIP Proxy の起動

Cisco Unified SIP Proxy を初めて起動すると、お使いの Cisco Unified SIP Proxy に関する情報を入力するように求められます。まず、ライセンス SKU を入力するように求められます。SKU は内容明細票、納品書、または注文確認書で確認できます。ライセンスの確認が済んだら、モジュールの設定を行うかどうかを尋ねられるので [yes] を選択し、引き続きタイムゾーン、NTP サーバなどの設定の詳細を入力します。

ソフトウェアのダウンロードとインストール方法

- 「クリーン インストール コマンドの使用」 (P.16)
- 「クリーン インストール コマンド使用の前提条件」 (P.16)
- 「クリーン インストール コマンドのソフトウェア ファイルのダウンロードとインストール」 (P.17)
- 「ソフトウェアのインストール例」 (P.17)
- 「ポストインストール設定ツールの使用」 (P.20)



ヒント

以下のいずれかの手順を実行中に電源が切れるか接続が切れると、通常は割り込みが検出され、システムによって復旧が試行されます。復旧に失敗した場合は、ブートヘルパーを使ってシステムを再インストールしてください。

クリーン インストール コマンドの使用

クリーン インストール プロセスの使用中は、システムはオフラインになります。クリーン インストールでは、ディスクに新しいファイルをロードする前にディスク上のファイルが削除されます。

ただし、現行のモジュール設定（存在する場合は、通常はフラッシュメモリに保存されています。新しいファイルのロード後、フラッシュ内で見つかった設定（存在する場合は）を復元するようにシステムが求めてきます。この設定を新しいイメージに復元するように選択できます。格納された設定には、以前のインストールの情報が一部含まれていますが、バックアップとまったく同じというわけではありません。

災害から復旧する際にバックアップがない場合、保存されている設定を復元します。保存されている設定を復元しないことを選択すると、設定はフラッシュから削除されます。

クリーン インストール コマンド使用の前提条件

- 次の情報を収集します。
 - FTP サーバのホスト名または IP アドレス。DNS を使用するように Cisco Unified SIP Proxy を設定している場合はホスト名を使用します。DNS を使用するように Cisco Unified SIP Proxy を設定していない場合は IP アドレスを使用します。
 - FTP サーバのユーザ名
 - FTP サーバのパスワード
 - ソフトウェア パッケージ名
- FTP サーバが設定済みでアクティブになっていることを確認します。
- FTP サーバからモジュールに ping できることを確認します。

クリーンインストール コマンドのソフトウェア ファイルのダウンロードとインストール

手順

- ステップ 1 Cisco.com にログインし、Cisco Unified SIP Proxy ソフトウェア ダウンロード ページ (<http://tools.cisco.com/support/downloads/pub/Redirect.x?mdfid=282713225>) を開きます。
- ステップ 2 Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5 ソフトウェア ファイルをすべてダウンロードします。全ファイルの詳細なリストは、『[Release Notes for Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5](#)』を参照してください。
- ステップ 3 ファイルを FTP サーバにコピーします。
- ステップ 4 Cisco Unified SIP Proxy EXEC コマンドを開始し、次のコマンドを入力します。
`ping <ftp_server_ip_address>`
- ステップ 5 次のコマンドを入力してソフトウェアをインストールします。
`software install clean url ftp://<ftp_server_ip_address>/cusp-k9.nmx.8.5.1.pkg`
- ステップ 6 `y` を入力してインストールを確認します。
- ステップ 7 `boot disk` を入力します。
- ステップ 8 `y` を入力して、ポストインストール設定をすぐに開始します。
- ステップ 9 `y` を入力して設定内容をすぐに確認します。
- ステップ 10 メモリに保存されている設定を復元する場合は `y` を、バックアップを使用して設定を復元する場合は `n` を入力します。
- ステップ 11 ステップ 10 で `y` を入力した場合は、もう一度 `y` を入力し、保存した設定の復元を確認します。
- ステップ 12 `show software versions` コマンドを使って再インストールを確認します。

関連事項

CLI コマンドの詳細については、『[CLI Command Reference for Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5](#)』を参照してください。

ソフトウェアのインストール例

次の出力は、オンライン インストールのプロセスを示しています。FTP サーバにアクセス可能かの確認、メモリ内のデータを使った設定、最後にバージョンの確認を行っています。

```
se-10-50-30-125#software install clean url ftp://10.50.10.25/dir/cusp-k9.nmx.8.5.1.pkg
```

```
WARNING:: This command will install the necessary software to
WARNING:: complete a clean install. It is recommended that a backup be done
WARNING:: before installing software.
```

```
Would you like to continue?[confirm]
```

```
Downloading ftp cusp-k9.nmx.8.5.1.pkg
Bytes downloaded : 147082
```

```
Validating package signature ... done
- Parsing package manifest files... complete.
Validating installed manifests .....complete.
```

```

- Checking Package dependencies... complete.
- Checking Manifest dependencies for subsystems in the install candidate list...
complete
Starting payload download
Starting payload download
File : cusp-full-k9.nmx.8.5.1.prt1 Bytes : 83865859
Downloading payload(s) complete
Validating payloads match registered checksums...
- cusp-full-k9.nmx.8.5.1.prt1
.....verified
Validating installed manifests .....complete.
Clearing previous downgrade files ... complete.
Performing Hot install ...starting_phase:
install_files.sh /dwnld/.hot_work_order
install_file: /dwnld/pkgdata/cusp-full-k9.nmx.8.5.1.prt1 0 __PRIMARY_BOOTLOADER__ gz
add_file /dwnld/pkgdata/cusp-k9.nmx.8.5.1.pkg 1 /
/sw/installed/manifest/bootloader_prim_manifest.sig none
install_file: /dwnld/pkgdata/cusp-full-k9.nmx.8.5.1.prt1 5 __SECONDARY_BOOTLOADER__ gz
add_file /dwnld/pkgdata/cusp-k9.nmx.8.5.1.pkg 4 /
/sw/installed/manifest/bootloader_sec_manifest.sig none
WARNING sysdb util exit (Protocol error) Probable leak of evtsrc @b704f1b0 by: python
InstMain.py
.
superthread: INFO superthread server output END

starting_phase:
install_files.sh /dwnld/.work_order
Mon Apr 5 18:20:48 UTC 2010
Remove: ///
root directory
removing INSTALLER_WORK_ORDER
removing INSTALL_COMPLETE
removing application
removing data
removing database
removing home
removing ldap
removing name(s)
removing opt
removing scratch
removing sw
clearing ///tmp/
removing usr
add_file /dwnld/pkgdata/cusp-full-k9.nmx.8.5.1.prt1 4 / tgz
add_file /dwnld/pkgdata/cusp-full-k9.nmx.8.5.1.prt1 7 / tgz
add_file /dwnld/pkgdata/cusp-full-k9.nmx.8.5.1.prt1 9 / tgz
cdp: INFO cdp server output WARNING sysdb evt provider (Operation canceled) event
handler is dead: event=get, attr=/sw/dns/host/name, sender=1554'/bin/cdpd', state=0,
deadline=11:28:24+=450, provider=dns@1634'?'

cdp: INFO cdp server output WARNING sysdb evt provider (Operation canceled) event
handler is dead: event=get, attr=/sw/dns/host/domain, sender=1554'/bin/cdpd', state=0,
deadline=18:28:24+=450, provider=dns@1634'?'

extract_mv_file: /dwnld/pkgdata/cusp-full-k9.nmx.8.5.1.prt1 2 / lib tgz
extract_mv_file: /dwnld/pkgdata/cusp-full-k9.nmx.8.5.1.prt1 2 / bin tgz
extract_mv_file: /dwnld/pkgdata/cusp-full-k9.nmx.8.5.1.prt1 2 / etc tgz
extract_mv_file: /dwnld/pkgdata/cusp-full-k9.nmx.8.5.1.prt1 2 / sbin tgz
install_file:
n/KpXrE2b444jrkS1T6Kcu3co1adzDK+EGgoG/EwPX5rIY20ST+kRKYH5ulF28p7AIESITDsysw3XBa6kI3wgeCEN
EL8x5mEtKWGoDL4HzlyK7j3q5Gr7G9P81JGRPA0b77iuFj1QPWiw931EOA3teCPfg6ZLnSlhFA3s2hmQ=
__BZ_SIGNATURE__

```

```

bzsig ldbl -m bryce -t bzsig
n/KpXrE2b444jrkSlT6Kcu3coladzDK+EGgoG/EwPX5rIY20ST+kRKYH5ulF28p7AIESITDsysW3XBa6kI3wgeCEN
EL8x5mEtKWGoDL4HzlyK7j3q5Gr7G9P81JGRPA0b77iuFjlQPBWiv931EOA3teCPfg6ZLnSlhFA3s2hmQ=
add_file /dwnld/pkgdata/cusp-full-k9.nmx.8.5.1.prt1 2 / bzImage tgz
add_file /dwnld/pkgdata/cusp-k9.nmx.8.5.1.pkg 3 /
sw/installed/manifest/cusp_infrastructure_manifest.sig none
add_file /dwnld/pkgdata/cusp-k9.nmx.8.5.1.pkg 1 /
sw/installed/manifest/bootloader_prim_manifest.sig none
add_file /dwnld/pkgdata/cusp-k9.nmx.8.5.1.pkg 7 /
sw/installed/manifest/infrastructure_manifest.sig none
add_file /dwnld/pkgdata/cusp-k9.nmx.8.5.1.pkg 8 /
sw/installed/manifest/global_manifest.sig none
add_file /dwnld/pkgdata/cusp-k9.nmx.8.5.1.pkg 4 /
sw/installed/manifest/bootloader_sec_manifest.sig none
add_file /dwnld/pkgdata/cusp-k9.nmx.8.5.1.pkg 6 /
sw/installed/manifest/installer_manifest.sig none
add_file /dwnld/pkgdata/cusp-k9.nmx.8.5.1.pkg 2 /
sw/installed/manifest/oscore_manifest.sig none
add_file /dwnld/pkgdata/cusp-k9.nmx.8.5.1.pkg 5 /
sw/installed/manifest/gpl_infrastructure_manifest.sig none
Remove: //dwnld/pkgdata/cusp-k9.nmx.8.5.1.pkg
Remove: //dwnld/pkgdata/cusp-full-k9.nmx.8.5.1.prt1
Creating new nodes.
Performing final moves mnt_dir: /
INIT: fndn_udins_wrapper: INFO fndn_udins_wrapper server output END

cdp: INFO cdp server output END

Rebooting ...

shutdown: sending all processes the TERM signal...
rbcpl: INFO rbcpl daemon output END

platform.config: INFO platform.config server output END

trace: INFO trace daemon output END

shutdown: sending all processes the KILL signal.
shutdown: turning off swap
shutdown: unmounting all file systems
Please stand by while rebooting the system.
Restarting system.
Nmi Npx0 Dly P92 Sha0 Kbd0 Cmos Pci Dma0 PrtB Tim Exp Rfsh Geom

Initializing memory. Please wait. Mem0 Mem1 Ebda Sha1 CacheE Admgr1 Memmgr1 AdmgrEbda
Media LowBios Brd2

Swap to secondary BIOS ... Mem1 Ebda Sha1 CacheE Admgr1 Memmgr1 AdmgrEbda Media LowBios
Brd2 Cache0 Driver PostDrv Dma1 Irql Vec Brd4 Time0 Kbd1 Speed Com Vid0 Par PciEnum Vid1
Redir Brd6 Com KbdBuf SMM
General Software Firmbase[r] SMM Kernel 1.3.2 Feb 11 2005 11:51:07
Intel(R) E7320 Performance Development Platform

EIST: Enhanced Intel Speedstep Driver, V3.0.
EIST: Copyright (C) 2003-2006 General Software, Inc.
EIST: Built Mar 3 2006, 14:49:27
UsbHid Pwd Msg0 Msg1 Cache1 Mem2 Prot Cache2 Flg Siz0 Msg2 Ata Dsk Npx1 Apm Err Dbg Enb
App MemReduce MemSync1 Ext MemSync2 PciRom MemSync3 Setup Time1 Mfg Brd8 Com Admgr2 Cfg
Brd10
DDR2 Memory 2047 MB with ECC detected
Intel(R) Celeron(R) M processor 1.00GHz
BIOS ISE 5.00, Build date: 05/05/06
System Now Booting ...

```

```

704 832 968 1040 1172 1184 1196 1208 1220 1228 1240 1260 1276 1288 1304 1320 1332 1348
1368 1380 1644 1784 2060 2204 2344 2860 3376 3640 3904 4168 RSA decrypt returned:33
a434d0dc915ae14f5477ff3cf44c7d22

Booting from Secure secondary boot loader..., please wait.

[BOOT-ASM]

Updating flash with bootloader configuration: 1
Please wait ...
.....done.

Please enter '***' to change boot configuration:
Loading disk:/bzImage ... Verifying ... done.
Starting Kernel.

Platform: nmx

Cisco init
INIT: version 2.86 booting
mounting proc fs ...
mounting sys fs ...
mounting /dev/shm tmpfs ...
reiser root fs ...
Reiserfs super block in block 16 on 0x801 of format 3.6 with standard journal
Blocks (total/free): 19537040/19481910 by 4096 bytes
Filesystem is clean
Filesystem seems mounted read-only. Skipping journal replay.
Checking internal tree..finished

FILESYSTEM CLEAN
Remounting the root filesystem read-write...

kernel.sem = 1900 4000 32 100
vm.overcommit_memory = 1

Welcome to Cisco Service Engine

Power button monitor started
Setting the system time from hardware clock

***** rc.aesop *****
Populating resource values from /etc/bryce_rsrc_file
attribute ios_rbc/app_cookie_id exists
Populating resource values from /etc/default_rsrc_file
Populating resource values from /etc/products/umg/default_rsrc_file
Processing manifests . . . . . complete
==> Management interface is eth0
==> Management interface is eth0

Serial Number: FOC11424VUM
INIT: Entering runlevel: 2
***** rc.post_install *****

```

ポストインストール設定ツールの使用

最初のセッションを開くと、ポストインストール設定ツールが起動し、すぐに設定を開始するかをきいてきます。

応答として **y** または **n** を入力します。 **n** を入力するとシステムは一時停止します。 **y** を入力すると、確認を求められたあとに、対話式のポストインストール設定プロセスが開始されます。

次に例を示します。

```
IMPORTANT::
IMPORTANT::      Welcome to Cisco Systems Service Engine
IMPORTANT::      post installation configuration tool.
IMPORTANT::
IMPORTANT:: This is a one time process which will guide
IMPORTANT:: you through initial setup of your Service Engine.
IMPORTANT:: Once run, this process will have configured
IMPORTANT:: the system for your location.
IMPORTANT::
IMPORTANT:: If you do not wish to continue, the system will be halted
IMPORTANT:: so it can be safely removed from the router.
IMPORTANT::

Do you wish to start configuration now (y,n)? yes
Are you sure (y,n)? yes

IMPORTANT::
IMPORTANT:: A configuration has been found in flash. You can choose
IMPORTANT:: to restore this configuration into the current image.
IMPORTANT::
IMPORTANT:: A stored configuration contains some of the data from a
IMPORTANT:: previous installation, but not as much as a backup.
IMPORTANT::
IMPORTANT:: If you are recovering from a disaster and do not have a
IMPORTANT:: backup, you can restore the saved configuration.
IMPORTANT::
IMPORTANT:: If you choose not to restore the saved configuration, it
IMPORTANT:: will be erased from flash.
IMPORTANT::

Would you like to restore the saved configuration? (y,n) n

Erasing old configuration...done.

IMPORTANT::
IMPORTANT:: The old configuration has been erased.
IMPORTANT:: As soon as you finish configuring the system please use the
IMPORTANT:: "write memory" command to save the new configuration to flash.
IMPORTANT::

Enter Hostname
(my-hostname, or enter to use se-10-50-30-125):
Using se-10-50-30-125 as default

Enter Domain Name
(mydomain.com, or enter to use localdomain): cuspb

IMPORTANT:: DNS Configuration:
IMPORTANT::
IMPORTANT:: This allows the entry of hostnames, for example foo.cisco.com, instead
IMPORTANT:: of IP addresses like 1.100.10.205 for application configuration. In order
IMPORTANT:: to set up DNS you must know the IP address of at least one of your
IMPORTANT:: DNS Servers.

Would you like to use DNS (y,n)?y

Enter IP Address of the Primary DNS Server
(IP address): 180.180.180.50
Found server 180.180.180.50
```

Enter IP Address of the Secondary DNS Server (other than Primary)
(IP address, or enter to bypass):

E

Enter Fully Qualified Domain Name(FQDN: e.g. myhost.mydomain.com)
or IP address of the Primary NTP server
(FQDN or IP address, or enter for 10.50.30.1): **10.50.10.1**
Found server 10.50.10.1

Enter Fully Qualified Domain Name(FQDN: e.g. myhost.mydomain.com)
or IP address of the Secondary NTP Server
(FQDN or IP address, or enter to bypass):

Please identify a location so that time zone rules can be set correctly.
Please select a continent or ocean.

- | | | | |
|---------------|-------------------|-----------------|-------------------|
| 1) Africa | 4) Arctic Ocean | 7) Australia | 10) Pacific Ocean |
| 2) Americas | 5) Asia | 8) Europe | |
| 3) Antarctica | 6) Atlantic Ocean | 9) Indian Ocean | |

#? **2**

Please select a country.

- | | |
|------------------------|-----------------------------|
| 1) Anguilla | 27) Honduras |
| 2) Antigua & Barbuda | 28) Jamaica |
| 3) Argentina | 29) Martinique |
| 4) Aruba | 30) Mexico |
| 5) Bahamas | 31) Montserrat |
| 6) Barbados | 32) Netherlands Antilles |
| 7) Belize | 33) Nicaragua |
| 8) Bolivia | 34) Panama |
| 9) Brazil | 35) Paraguay |
| 10) Canada | 36) Peru |
| 11) Cayman Islands | 37) Puerto Rico |
| 12) Chile | 38) St Barthelemy |
| 13) Colombia | 39) St Kitts & Nevis |
| 14) Costa Rica | 40) St Lucia |
| 15) Cuba | 41) St Martin (French part) |
| 16) Dominica | 42) St Pierre & Miquelon |
| 17) Dominican Republic | 43) St Vincent |
| 18) Ecuador | 44) Suriname |
| 19) El Salvador | 45) Trinidad & Tobago |
| 20) French Guiana | 46) Turks & Caicos Is |
| 21) Greenland | 47) United States |
| 22) Grenada | 48) Uruguay |
| 23) Guadeloupe | 49) Venezuela |
| 24) Guatemala | 50) Virgin Islands (UK) |
| 25) Guyana | 51) Virgin Islands (US) |
| 26) Haiti | |

#? **47**

Please select one of the following time zone regions.

- 1) Eastern Time
- 2) Eastern Time - Michigan - most locations
- 3) Eastern Time - Kentucky - Louisville area
- 4) Eastern Time - Kentucky - Wayne County
- 5) Eastern Time - Indiana - most locations
- 6) Eastern Time - Indiana - Daviess, Dubois, Knox & Martin Counties
- 7) Eastern Time - Indiana - Pulaski County
- 8) Eastern Time - Indiana - Crawford County
- 9) Eastern Time - Indiana - Pike County
- 10) Eastern Time - Indiana - Switzerland County
- 11) Central Time
- 12) Central Time - Indiana - Perry County
- 13) Central Time - Indiana - Starke County
- 14) Central Time - Michigan - Dickinson, Gogebic, Iron & Menominee Counties

```
15) Central Time - North Dakota - Oliver County
16) Central Time - North Dakota - Morton County (except Mandan area)
17) Mountain Time
18) Mountain Time - south Idaho & east Oregon
19) Mountain Time - Navajo
20) Mountain Standard Time - Arizona
21) Pacific Time
22) Alaska Time
23) Alaska Time - Alaska panhandle
24) Alaska Time - Alaska panhandle neck
25) Alaska Time - west Alaska
26) Aleutian Islands
27) Hawaii
#? 21
```

The following information has been given:

```
United States
Pacific Time
```

Therefore TZ='America/Los_Angeles' will be used.

Is the above information OK?

1) Yes

2) No

#? 1

Local time is now: Mon Apr 5 11:20:17 PDT 2010.

Universal Time is now: Mon Apr 5 18:20:17 UTC 2010.

executing app post_install

executing app post_install done

Configuring the system. Please wait...

Changing owners and file permissions.

Tightening file permissions ...

Change owners and permissions complete.

Creating Postgres database done.

INIT: Switching to runlevel: 4

INIT: Sending processes the TERM signal

==> Starting CDP

STARTED: cli_server.sh

STARTED: ntp_startup.sh

STARTED: LDAP_startup.sh

STARTED: SQL_startup.sh

STARTED: dnldr_startup.sh

STARTED: HTTP_startup.sh

STARTED: probe

STARTED: fndn_udins_wrapper

STARTED: superthread_startup.sh

STARTED: /bin/products/umg/umg_startup.sh

Waiting 49 ...

IMPORTANT::

IMPORTANT:: Administrator Account Creation

IMPORTANT::

IMPORTANT:: Create an administrator account.

IMPORTANT:: With this account, you can log in to the

IMPORTANT:: Cisco Unified SIP Proxy

IMPORTANT:: GUI and run the initialization wizard.

IMPORTANT::

Enter administrator user ID:

(user ID): **test**

tesEnter password for test:

(password):

■ ソフトウェアのダウンロードとインストール方法

```
Confirm password for test by reentering it:  
(password):
```

```
SYSTEM ONLINE
```

```
se-10-50-30-125# show software versions  
Cisco Unified SIP Proxy version (8.5.1)  
Technical Support: http://www.cisco.com/techsupport Copyright (c) 1986-2010 by Cisco  
Systems, Inc.
```

```
se-10-50-30-125# show sof  
se-10-50-30-125# show software p  
se-10-50-30-125# show software packages
```

```
Installed Packages:
```

```
- Installer (Installer application) (8.5.1)  
- CUSP (Cisco Unified SIP Proxy) (8.5.1)  
- Bootloader (Primary) (Service Engine Bootloader) (2.1.23)  
- Infrastructure (Service Engine Infrastructure) (2.3.2.2)  
- Global (Global manifest) (8.5.1)  
- Bootloader (Secondary) (Service Engine Bootloader) (2.1.23.0)  
- Core (Service Engine OS Core) (2.4.0.4)  
- GPL Infrastructure (Service Engine GPL Infrastructure) (2.2.1.1)  
SE-Module>
```



Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5 ソフトウェア ライセンスのインストール



(注)

シスコ ソフトウェアのアクティブ化プロセスの概要については、『[Software Activation Guide for Cisco Unity Express 7.1 and Later Versions](#)』を参照してください。

- 「[Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5 のライセンスの概要](#)」 (P.25)
- 「[Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5 のライセンスのインストール](#)」 (P.25)

Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5 のライセンスの概要

Cisco Unified SIP Proxy ソフトウェアの機能は、Cisco Unified SIP Proxy モジュールにインストールされた一連のライセンスにより有効になります。Cisco Unified SIP Proxy のライセンスについては、『[Release Notes for Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5](#)』を参照してください。この資料には、さまざまなサポート対象デバイスで使用可能なライセンスの詳細が記載されています。



(注)

以前のリリースから Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5 へのライセンスのアップグレードはサポートされていません。

Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5 のライセンスのインストール

Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5 以降、Cisco Software Licensing (CSL; シスコ ソフトウェア ライセンシング) という新しい種類のライセンス システムがサポートされています。

Cisco Unified SIP Proxy ソフトウェアのインストールとアクティブ化については、次の 2 つの選択肢があります。

- Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5 がインストールされた新しいモジュールを注文した場合は、Cisco Unified SIP Proxy のイメージと、指定したパッケージおよび機能に対応したライセンスがブレイクインストールされた状態で出荷されます。ソフトウェアを使用前にアクティブ化または登録する必要はありません。モジュールのフラッシュ メモリにソフトウェア ライセンス ファイルが格納されています。特にすることは何もありません。

- 次の手順に従って Cisco Unified SIP Proxy のライセンスを手動でインストールします。

手順

-
- ステップ 1** 必要な機能およびライセンスを決定します。ライセンスの詳細については、『[Release Notes for Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5](#)』を参照してください。
- ステップ 2** ライセンス ファイルを取得します。「[新しいライセンスまたは追加のライセンスの取得](#)」(P.26) を参照してください。
- ステップ 3** ライセンスをインストールしてデバイスをリロードします。「[CLI を使った Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5 ライセンスのインストール](#)」(P.27) を参照してください。
-

新しいライセンスまたは追加のライセンスの取得

- 「[必要な情報](#)」(P.26)
- 「[ライセンシング ポータルを使用した追加機能またはアプリケーションのライセンスの取得](#)」(P.26)

必要な情報

CSL ライセンスを新規または追加で取得する前に、次の情報を収集してください。

- 必要な機能の SKU。SKU は、Cisco Unified SIP Proxy の必要な機能に対応した必要なライセンスを指定するために、注文処理で使用します。『[Release Notes for Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5](#)』を参照してください。
- デバイスの製品 ID (PID) とシリアル番号 (SN)。この 2 つを合わせて Unique Device Identifier (UDI; 一意のデバイス ID) になります。UDI は、ほとんどのシスコ ハードウェア デバイスの背面にあるラベル、または現場交換可能マザーボードの前面パネルにあるラベル トレイに印刷されています。UDI は、ソフトウェアで確認することもできます。確認には、特権 EXEC モードで **show license udi** コマンドを使用します。

ライセンシング ポータルを使用した追加機能またはアプリケーションのライセンスの取得



(注) 次の手順で使用する URL のいくつかは、Cisco.com のパスワードがないとアクセスできません。

Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5 の機能の追加ライセンスを取得するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** www.cisco.com/go/ordering にアクセスし、ライセンスを注文するための注文処理（提携先経由またはシスコから直接など）を 1 つ選択します。ライセンスを購入すると、Product Activation Key (PAK; 製品アクティベーション キー) が送られてきます。PAK は英数字の文字列で、ライセンスを購入したことを示します。
- ステップ 2** ライセンス ファイルを取得するには、Cisco Product License Registration Portal (www.cisco.com/go/license) に戻ります。プロンプトが表示されたら、PAK と、ライセンスをインストールするデバイスの Unique Device Identifier (UDI; 一意のデバイス ID) を入力します。

- ステップ 3 ライセンス ファイルをダウンロードするか、電子メールでライセンス ファイルを受け取ります。
 - ステップ 4 ライセンスを取得する各デバイスについて、上記の該当する手順を繰り返します。
 - ステップ 5 ライセンス ファイルを FTP または TFTP サーバにコピーします。
-

CLI を使った Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5 ライセンスのインストール

次の手順に従い、Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5 のライセンスをインストールします。

手順

- ステップ 1 CLI にログインします。
- ステップ 2 **license install <URL>** と入力します。<URL> は、「[ライセンスング ポータルを使用した追加機能またはアプリケーションのライセンスの取得](#)」のステップ 5 でコピーしたライセンスの URL です。
- ステップ 3 **show license** または **show software licenses** を入力してライセンスを確認します。
- ステップ 4 **license activate** を入力して新しいライセンスをアクティブ化します。
- ステップ 5 **reload** を入力し、モジュールを本当にリロードするのかわ確認したうえでモジュールをリロードします。
- ステップ 6 ライセンスを削除するには、**license clear** を入力します。



(注) 評価ライセンスは削除できません。

関連事項

CLI コマンドの詳細については、『[CLI Command Reference for Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5](#)』を参照してください。



Cisco Unified SIP Proxy Release 1.x から Release 8.5 への移行

- 「移行の概要」 (P.29)
- 「制限事項」 (P.29)
- 「手順の概要」 (P.29)
- 「手順の詳細」 (P.30)
- 「関連事項」 (P.31)

移行の概要

お使いのシステムを Cisco Unified SIP Proxy Release 1.x から Release 8.5 にはアップグレードできません。ただし、システムを移行することはできます。移行では、以前の設定を使うことはできませんが、ソフトウェア システムを完全に再インストールする必要があります。

Release 1.x から Release 8.5 への移行ではクリーン インストールが必要です。クリーン インストールではすべての設定とデータが削除されます。このため、最初に設定をバックアップしておく必要があります。新しいシステムのインストール後に設定とデータを復元します。

制限事項

下位互換性を保証するために最善の努力はしていますが、バックアップした設定を十分に調べ、情報が変わっていないか確認することを推奨します。

手順の概要

1. `commit`
2. `write [erase | memory | terminal]`
3. `offline`
4. `backup {revisions number | server url ftp-url username ftp-username password ftp-password}`
5. `backup category {all | configuration | data}`
6. `continue`

7. `software install clean {package-filename | url ftp://ftp-server-ip-address/package-filename}`
8. `offline`
9. `restore id backup-id category {all | configuration | data}`
10. `reload`

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<pre>commit</pre> <p>例:</p> <pre>se-10-0-0-0(cusp-config)# commit</pre>	Cisco Unified SIP Proxy のコミット可能な設定変更を有効にします。
ステップ 2	<pre>write [erase memory terminal]</pre> <p>例:</p> <pre>se-10-0-0-0# write memory</pre>	実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションに書き込みます。
ステップ 3	<pre>offline</pre> <p>例:</p> <pre>se-10-0-0-0# offline !!!WARNING!!!: Putting the system offline will terminate all active calls. Do you wish to continue[n]? : y</pre>	<p>オフライン モードを開始します。すべてのコールを終了させます。</p> <p>(注) 引き続き Cisco Unified SIP Proxy はオフライン モードでのコールはルーティングします。</p>
ステップ 4	<pre>backup {revisions number server url ftp-url username ftp-username password ftp-password}</pre> <p>例:</p> <pre>se-10-0-0-0(offline)# backup server url ftp://192.1.1.1/ username <ftp-username> password <ftp-password></pre>	バックアップ サーバを設定します。
ステップ 5	<pre>backup category {all configuration data}</pre> <p>例:</p> <pre>se-10-0-0-0(offline)# backup category all</pre>	バックアップして保存するデータのタイプを指定します。
ステップ 6	<pre>continue</pre> <p>例:</p> <pre>se-10-0-0-0(offline)# continue</pre>	オフライン モードを終了し、システムを前のオンライン モードに戻します。システムは新しいコールの処理を開始します。
ステップ 7	<pre>software install clean {package-filename url ftp://ftp-server-ip-address/package-filename}</pre> <p>例:</p> <pre>se-10-0-0-0(offline)# software install clean url ftp://192.1.1.1/cusp-k9.nmx.8.5.pkg</pre>	Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5 イメージをインストールします。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 8	offline 例 : se-10-0-0-0# offline !!!WARNING!!!: Putting the system offline will terminate all active calls. Do you wish to continue[n]? : y	オフライン モードを開始します。すべてのコールを終了させます。 (注) 引き続き Cisco Unified SIP Proxy はオフライン モードでのコールはルーティングします。
ステップ 9	restore id backup-id category {all configuration data} 例 : se-10-0-0-0 (offline)# restore id <backup-id> category all	バックアップ ID の値と復元するファイルのタイプを指定します。
ステップ 10	reload 例 : se-10-0-0-0 (offline)# reload	アップロードしたファイルの情報をアクティブ化し、Cisco Unified SIP Proxy システムを再起動します。

関連事項

CLI コマンドの詳細については、『[CLI Command Reference for Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5](#)』を参照してください。



INDEX

B

boot disk コマンド [17](#)

C

Cisco 2900 シリーズ [2](#)

Cisco 3900 シリーズ [2](#)

Cisco Software Licensing システム [2, 25](#)

CiscoWorks configmaker [9](#)

CSL システム [2](#)

E

enable コマンド [13](#)

exit コマンド [12](#)

I

interface integrated-Service-Engine コマンド [12](#)

ip address コマンド [12](#)

ip route コマンド [12](#)

ip unnumbered コマンド [12](#)

L

license install コマンド [27](#)

N

NME-CUSP-522-K9 [2](#)

S

service-module integrated-Service-Engine コマンド [14](#)

service-module ip address コマンド [12](#)

service-module ip default-gateway コマンド [12](#)

Service Ready Engine モジュール [2](#)

show license udi コマンド [26](#)

show license コマンド [27](#)

show software licenses コマンド [27](#)

show software versions コマンド [17](#)

SM-SRE-700-K9 [2](#)

SM-SRE-900-K9 [2](#)

SRE モジュール [2](#)

あ

アップグレードのサポート [2](#)

い

インストールの概要 [1](#)

こ

コマンド

boot disk [17](#)

enable [13](#)

exit [12](#)

integrated-Service-Engine [14](#)

interface integrated-Service-Engine [12](#)

ip address コマンド [12](#)

ip route [12](#)

ip unnumbered [12](#)

license install [27](#)
 service-module integrated-Service-Engine [14](#)
 service-module ip address [12](#)
 service-module ip default-gateway [12](#)
 show license [27](#)
 show license udi [26](#)
 show software licenses [27](#)
 show software versions [17](#)

さ

サポート対象モジュール [2](#)

せ

制限事項

CiscoWorks configmaker [9](#)
 ハードディスクの交換 [9](#)

ね

ネットワーク モジュール

制限事項 [9](#)

は

ハードディスクの交換

制限事項 [9](#)

ふ

ファストイーサネット ポート [9](#)

ほ

ポート

制限事項 [9](#)
 ファストイーサネット [9](#)

も

モジュール

SRE [2](#)
 サポート対象 [2](#)

ら

ライセンス [2](#)

SKU [26](#)
 アップグレード [25](#)
 インストール [5, 25](#)

ライセンスのアップグレード [25](#)